

年 組 名前:

問1

ユネスコのエコパークに登録されている「甲武信」は、山梨県以外に、どこにまたがる地域で構成されていますか。

.....

問2

このマットを設置した理由を教えてください。

.....

.....

.....

.....

問3

甲武信ヶ岳とその周辺地域に生息している希少なチョウの名前と、何に指定されているか教えてください。

・名前: .....

・指定: .....

問4

山梨県が策定した「やまなし生物多様性地域戦略」の、目的を教えてください。

.....



山梨県が富士山5合目に設置した外来植物を防ぐマット。今夏から甲武信ヶ岳にも設けた (県提供)

# 靴底マットで外来種対策

## 甲武信エコパーク県が生態系保全へ

山梨県は、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の生物圏保存地域「エコパーク」に登録されている「甲武信」の生態系を守るため、外来種の種子の持ち込みを防ぐマットを甲武信ヶ岳で新たに2カ所設置した。マットは2020年から富士山5合目で設置され、注意喚起を呼びかける看板を併設して周知にも一役買っている。県内で設置場所が広がることで、専門家は「登山者らへの啓発によりつながる」と期待している。

県自然共生推進課によると、マットは縦90センチ、横50センチ、その上に縦60センチ、横36センチのブラシが置かれている。ブラシ部分で靴底などをこすることで、付着している泥や土砂とともに植物の種を落とす。「外来植物の持ち込みを防ぐ」と注意を促すメッセージが日本語、英語、中国語で書かれている縦74センチ、横36センチの看板も併設し、今月23日に大弛峠と西沢深谷に1カ所ずつ設置した。

甲武信ヶ岳とその周辺地域は19年にエコパークに登録され、「アマガシハミ」など絶滅危惧種に指定されている希少なチョウが生息。県はマットの設置で外来植物の持ち込みを防ぎ、在来植物と外来植物の交雑や外来植物による生態系に対する影響への対策につなげたい考え。

種の生育、生息の維持を目標に掲げている。県では20年から富士山5合目の駐車場や登山道の入り口にマットを設置。13年から富士山周辺で防除活動に取り組む富士山科学研究所の安田泰輔主幹研究員は、「外来植物を持ち込む可能性があることへの認知度は上がってきたが、知らない人はまだ多い」と指摘する。マットの設置で物理的に外来植物の種を除去できることに加え、「心理的にも登山者が自然環境へ意識を向けるきっかけとなり、啓発や普及としての役割も期待できる」と話していた。(雨宮文貴)

(2024年7月29日付 山梨日日新聞1面)